NEWSLETTER

2026年

マリアの風　Web　10/11



愛する

聖書の中に次のような話があります。ある律法の専門家がキリストに「律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」と尋ねました。キリストは「第一の掟はこれである。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 第二はこれである。『隣人を自分のように愛しなさい。』」と答えました。第二の掟は聖マリア病院の理念にも掲げられている言葉です。この言葉を読んで、神様を愛するって、どうすることだろう、隣人を、そして自分を愛するとはどうすることかと考えました。自分を愛するとは、自分を受け入れることかな、と思います。うまくいっている時は自分を受け入れるのは簡単ですが、自分に不甲斐なさを感じたり、失敗したり、人を傷つけたりすると落ち込んで、こんな自分はだ

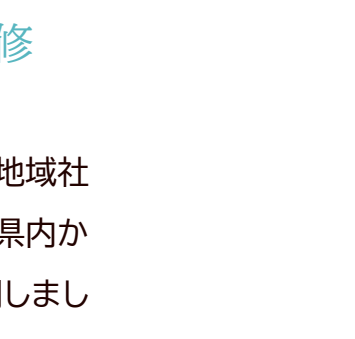
めなやつだ、と思うことも多々あります。そうすると、私は生きている価値があるのかとさえ思うのです。私の存在は何でしょう。私の顔、声、健康、能力、何一つ自分で選んだものはありません。全て与えられたものです。与えて下さったのは神様です。神様は目的があって私を創造し、そして必要なものを全て与えてくださったのです。だから自分の全てを、良いところも悪いところも全部受け入れてありのままの自分を感謝し喜ぶ、そして神様が望んでいる自分になること、これが神様を愛し、自分を愛するということかなと思います。では隣人を愛するとは、隣人も私と同じように、目的を持って神様から命を与えられ、今日を一生懸命に悩んだり、落ち込んだりして生きているのです。そう思えば相手を受け入れることができます。聖書の中で命じられている愛を今日も実践できますように。

（院長　山中淳子）

次回発行日　令和９年１月１日

薬学生の離島医療の研修

９ 月 ４ 日、離島地域の医療と地域社会への理解を深めるため、長崎県内から ８ 名の薬学生が当院を訪問しました。当院の薬剤師による説明のもと、院内見学などを実施いたしました。この機会を通じて、多くの学生が離島医療に興味を持っていただけることを期待しています。









鶴島巡礼

10 月 12 日～14 日、お告げのマリア修道会が企画する鶴島巡礼に、聖マリア病院の職員である赤窄さん夫婦と子どもたちが参加しました。年に１度行われる記念ミサに参加し、修道会の創立期の方々の歩いた道のりをたどりながら、聖マリア病院のカトリックの精神を学んだようです。

歴 史 メ モ

流刑地 鶴島と岩永マキの生涯

1868 年に発足した明治政府は江戸幕府のキリシタン禁教政策を踏襲し、浦上の潜伏キリシタン約 3,400 人を西日本各地に流罪とした（浦上四番崩れ）。117 人が岡山藩に預けられ、鶴島に送られた。政府が禁教を解く 73 年まで、島の開墾と改宗を強制されて 18 人が飢えや拷問で亡くなった。

岩永マキは 20 歳の頃、この流刑を体験している。信仰の自由を得、流刑地から戻った浦上の地は無残にも荒らされ、家も家財道具もなかったという。そんな中で、赤痢や天然痘が長崎で流行。一度は死を覚悟したマキと仲間の女性たちは、人々の救済のためにフランス人宣教師の手足となり、合宿しながら献身的に救護活動に励んだ。伝染病が終息した後に親を亡くした子どもが残され、彼女たちは自分たちの手でその子どもを育てることを決意。孤児を養う事業が始まり、これが日本で初めての児童養護施設、浦上養育院となり、女性たちの共同生活は現在のお告げのマリア修道会へとつながっていく。マキは、生前に新聞のインタビューで、引き取った孤児の数を 5,600 人と答えた。原爆によりマキに関する資料はほとんど消失しており、正確な数字は確認しようがないが、数多くの子どもたちのために、72 歳で亡くなるまでの生涯を捧げ尽くした。

鶴島巡礼に参加して

流刑の地「鶴島」への旅を通して、岩永マキさんの生涯を知り、今の自分の暮らしがどれほど恵まれたものであるかを深く実感しました。鶴島での過酷な生活だけでなく、帰郷後、数々の困難に直面しながらも信仰を守り抜き、自分を顧みず弱い人々のために人生を捧げたマキさんの姿に深く心を打たれました。その生き方こそが、カトリックの教えであり、私たちが目指すべき病院理念そのものだと強く感じました。ミサを司式してくださった白浜司教様とお会いし、お話しできたことも貴重な体験となりました。このような学びと気づきに満ちた機会を与えていただき、感謝いたします。

（システム　赤窄純治）

長崎から岡山まで半日以上バスに揺られ、日生（ひなせ）港から船に乗って 30 分ほどで鶴島へ到着しました。行きのバスの中では岩永マキさんや当時のキリシタンの話を聞き、鶴島までの道のりと、島での生活がどれほど過酷だったかを学びました。食べるものも満足にない中での徒歩と船での移動、無人島である鶴島で、空腹状態のまま何年何ヶ月も開墾の重労働を強制され、さらには拷問で命を落とされた方もいたという事実に、大きな衝撃を受けました。ミサでは当時の信者の方々に思いを寄せ、心を込めてお祈りを捧げました。この旅を通して信者の方々の強い信仰心に触れ、日常を送る私たちがこれから何をしていくべきかを改めて深く考える貴重な機会となりました。

（介護福祉士　赤窄美穂）







地域清掃

10 月 17 日　サスティナブル委員会の呼びかけにより、病院から丸木公園までのごみ拾い作業が行われました。日差しが強く汗ばむ陽気でしたが、ベトナムからの学生さんも加わり、道路や草むらのごみを拾い集めました。最後に飲み物をいただいて解散しました。







ロザリオの集い

ロザリオの月の最終日に当たり、入院中の患者さんと一緒にロザリオの祈りを唱えました。戦争や災害で困窮する人々に平和を、病気の人には苦しみに打ち勝つ恵みを願いました。









■研修医紹介～はじめまして～



福 島 萌 香　　先 生

Dr. Hukushima Moeka

◇出 身 地…熊本県
◇趣　　味…ピラティス、読書、
　　映画鑑賞（一人で楽しめます！）
　部　　活…ゴルフ（初心者レベルです）
◇志 望 科…産婦人科
◇研修期間…令和 8 年 9 月 6 日～10 月 31 日

初めまして、研修医の福島といいます。島に住むのは初めてですが、日々海の綺麗さや人々の優しさを感じています。釣りはしませんが、魚を食べるのは大好きです。2 ヶ月間頑張ります。ご指導をお願いします。





小 西 翔 太　　先 生

Dr. Konishi Syota

◇出 身 地…福岡県
◇趣　　味…グルメ、お酒、服、釣り、フットサル
◇志 望 科…眼科
◇研修期間…令和 8 年 10 月 4 日～11 月 28 日

わたしの先祖は、五島で酒屋をやっていました。ご縁があって、地域実習を五島で行えることを嬉しく思います。地域医療を学ぶのはもちろんですが、五島の文化にも触れることができたらいいなと思っています。短い間ですが、よろしくお願いします。

11 月と 12 月の行事予定

11 月

1日（日）　まごころひろば
3日（火）　第３回聖マリア病院
　　職業体験フェスタ
２５日（水）　追悼のつどい
２７日（金）　防火訓練

12 月

２５日（金）　クリスマス
２９日（火）　仕事納め

今 月 の 写 真



長崎県社会保険協会主催のゴルフコンペに参加した当院の職員が、自己ベストのスコアで見事優勝しました。おめでとうございます。

編集者より

今年は台風の進路を憂慮しながらも、秋らしい日々を感じることができ嬉しく思っています。当院では 10 月末より、聖マリアンナ医科大学の学生が実習のため、初めての五島での生活をスタートさせました。また 11 月には小学生の職場体験や追悼の集いなど、大切な年間行事も予定されています。秋の味覚を味わい、感性を磨き、学びを深める。―秋は、あらゆる人にとって何かを深めたくなる季節です。私たちも係わるすべての人から刺激をいただき、地域との絆を深め、人々の必要に答える病院となれるよう励みたいと思います。　（編集者）